

【第1表】

あ草小発第94号

令和3年2月25日

あきる野市教育委員会 殿

あきる野市立草花小学校

校長 田 中 淳 志

令和3年度 特別支援教室の教育課程について（届）

このことについて、学校教育法施行規則第140条及びあきる野市立学校の管理運営に関する規則第13条に基づき、特別支援教室による指導を下記のとおり届けます。

記

1 特別支援教室の教育目標

本校の学校教育目標「(ア) 海のように大きな心 (イ) 太陽のように輝く自分 (ウ) 大地のようにたくましく」の実現に向け、特別支援教室では次の4点を目標として設定する。

- 自分も他者も大切にできる子 (ア)                      ○助けを求められる子、受け入れられる子 (ア)
- 苦手なことにも取り組もうとする子 (ウ)              ○自分のできることをやり遂げる子 (イ)

2 教育目標を達成するための基本方針

- (1) きめ細かに情報収集し、適切なアセスメントを行により個に応じた指導を徹底する。
- (2) 望ましい教育環境を整備し、在籍学級と連携する。
- (3) 保護者及び関係機関（教育相談所、医療機関等）と連携する。
- (4) 発達障がい及び配慮を要する児童に対する教育の専門的機能を果たす。

3 指導の重点

自立活動の目標「個々の児童が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う」の達成に向け、対象児童の障がい特性を鑑み、次の4点を重点とする。

- 心理的な安定              ○人間関係の形成              ○身体の動き              ○コミュニケーション

上記の中で、特に、本校の特色である「あいさつ輝く草花小」「草花“るの育”」に取り組み、“あきる野っ子”を育成する。

4 その他の配慮事項

- (1) 社会性の課題がある児童には、個別指導と小集団指導を併用し、指導の効果を高める。小集団指導は 実態に応じたグループ編成に努める。
- (2) 年間を前期と後期の2期に分け、個別指導計画・指導報告書を基に保護者面談を行い、児童の課題と成長を共有する。
- (3) 拠点校との指導体制の兼ね合いを鑑み、年度当初は週2日間の指導日を設定し、小集団指導のグループ編成を工夫した指導を行う。巡回校、拠点校の年度内の相談件数の状況を踏まえ、指導日数の変更も視野に入れて対応する。
- (4) 感染症対策に努めるとともに、社会性の課題の見られる児童に対しての指導目標の達成を目指し、コロナ禍における教材・教具の開発をする。
- (5) 年間10回の臨床発達心理士からの助言を活かし、指導を充実する。